

製品・サービス動向-国内

■ブイキューブ：ノイズキャンセリングアプリケーション「Krisp（クリस्प）」の国内独占販売を開始、個人利用から大規模企業まで幅広い利用プランを提供

（取材：12月3日）

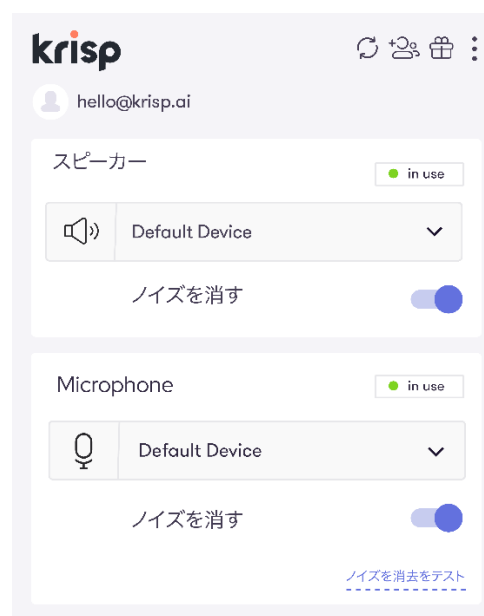
株式会社ブイキューブ (<https://jp.vcube.com/>) (東京都港区) は、Krisp Technologies 社 (<https://krisp.ai/>) (米国・カリフォルニア州) が開発するノイズキャンセリングアプリケーション「Krisp（クリस्प）」の日本国内独占販売契約を締結し、11月19日より提供を開始した。

Krisp は、「ONE BUTTON, NO NOISE」をコンセプトに開発された、環境音やノイズを軽減するアプリケーション。ヘッドセットやマイクスピーカーなどのハードウェアに採用されている、騒音を打ち消す技術を用いたノイズキャンセリング機能と異なり、マイクスピーカー等のハードウェアから入力された音を人の声と騒音に分解し、人の声のみを送受信できるようにする独自技術を用いている。2018年には米国の「Product Hunt」というスタートアップが新製品の市場ニーズを検証するサイトでゴールデン・キティ・アワード年間最優秀製品に選ばれている。

このため、ノイズキャンセリング機能を持たないヘッドセットやマイクスピーカーを用いても、Krisp を使えば、ノイズを打ち消す（Krisp では“ミュート”と呼んでいる。）ことができるため、快適にコミュニケーションが行えるようになっている。

今回、ブイキューブの協力により、同社会議室とレストランの間でつないだ Web 会議に Krisp を実際に使ってみると、レストランでの周りの来店客の声や音

がきれいに除去され、いかにも静かなところから Web 会議を行っているかのように、“明瞭に”声が聞こえたのを体感できた。ミュートの仕方は至って簡単で、Krisp のアプリケーションの画面ボタンをワンクリックするだけだ。ミュートは会話中常時オン/オフできる。



Krisp の日本語操作画面（最新版）（ブイキューブ）

自宅や外出先のカフェ、あるいはサテライトオフィスなどで Web 会議を行おうとすると、生活音やカフェに流れる音楽、人の話し声、咳払いやくしゃみ、さらには、ノートパソコンで議事録をとる際のキーボードのカタカタという入力音や資料のページをめくる音など、周囲のさまざまな音によって会議相手の声が聞こえづらくなり、そういった雑音で会議に集中できないといった課題も多く聞かれる。

もちろん、ノイズキャンセリング機能を搭載した

ヘッドセットやマイクスピーカーを使う手もあるが、ちょうど持ち合わせていなかったり、あるいは状況によって使用できない場合もありえる。そういった際に Krisp は重宝するソフトウェア型のノイズキャンセラーと言えよう。

「音を入力したり出力したりするアプリケーションを使用する場合 Krisp は有効なツールだ。たとえば、IP 電話/電話会議、Web 会議といったオンライン会議のほか、コールセンターでの活用、あるいは、ポッドキャスターやオンラインストリーマーの配信、オンラインゲーマーのボイスチャットなど、ビジネスだけでなくコンシューマーでも幅広く活用いただけるアプリケーションだ。」（ブイキューブ）

このような効果的なミュートが行えるのは、「KrispNet DNN」と呼ばれる積層ニューラルネットワークモデルをベースに、5 万人 2500 時間の音声データ、2 万種類の騒音データを学習させることで実現しているという。

「興味深い特徴のひとつとしては、Krisp を使用する環境にもよってくるが、大人の“大声”は打ち消さないが、子供の泣き声はノイズとして除去する、といった処理を行うというものもある。このあたりは AI を活用した学習機能によるもので、音の選別技術の革新が続けられている。」（ブイキューブ）

さて、Krisp Technologies 社は、創業 2 年に満たない短期間で Salesforce 社や Intel 社への導入実績があり、Web 会議サービスやならびにテレワークの先行市場であるアメリカを始めとした世界 150 か国以上、3 万人をこえるユーザに利用されている。加えて、「V-CUBE」や「Skype」、「Google Hangout」、「Zoom」などの Web 会議や音声通話サービスなど 600 を超えるアプリケーションの動作検証が完了している。「Windows もしくは Mac で動作するアプリケーションであれば、ほぼ問題なく Krisp が使えるだろう。」（ブイキューブ）

実際に Krisp を使用する場合、まずは指定のウェブサイトに行く。そこでメールアドレスもしくは Google アカウント（今後他のクラウドサービスとの連携の可能性あり）で登録し、ローカル PC にアプリケーションをダウンロードする形。インストールをしてマイクやスピーカーなどを設定するだけで、あとは Web 会議などを行っている際にミュートボタンをワンクリックで ON/OFF するだけで、Krisp の効果を体感できる。

ミュートはスピーカー用 (Listen) とマイク用 (Speak) と 2 つボタンがある。つまり、相手からの通話音に含まれる環境音を打ち消す (Listen)、あるいは、自分から相手への通話音に含まれる環境音を打ち消す (Speak)、という 2 つの方法でミュートする形になっている。場面によって使い分けることが可能だ。

「ちなみに Krisp はすべての音声処理をローカル PC で処理するため、音声データが外部に漏れるなどセキュリティの心配はない。」（ブイキューブ）

サブスクリプションモデルで提供されている Krisp は、無償の「Free」に加え、有償の「Pro」そして複数ユーザが使用する「Teams」や「Enterprise」といった、個人使用から大規模企業利用まで幅広いユーザの使用環境に合わせたプランを用意している。

なお、「Teams」「Enterprise」になると複数のユーザが使用することになるため、管理者機能も提供されている。ユーザ登録やバージョンアップなどの管理が簡単に行えるようになっている。また、シングルサインオン (SSO) にも対応しているため、社内のシステムとも連携させることも可能だ。「今後、主要なビジネス向けのクラウドサービスとの連携もありえる。」（ブイキューブ）

ブイキューブとしては、映像コミュニケーション分野の総合ソリューションプロバイダーとして、Krisp を V-CUBE サービス利用中のユーザだけでなく、他の Web 会議サービスを利用しているユーザにも提供することで、ユーザが目指している働き方改革やテレ

ワークの実現を支援していく考え。またこれにより新たな顧客層の拡大を目指している。

■住友商事マシネックス：日本全国約 4,000 カ所のワークスペースを利用できるサービス「WORK Space SMX」、スペイシーやテレキューブサービスと連携

(12月3日)

住友商事マシネックス株式会社 (<https://www.smx.co.jp/>) (東京都千代田区) は、2020年の東京オリンピックに向けて更に関心が高まっている、働き方改革およびテレワークを支援するサービスとして、日本全国約 4,000 カ所のワークスペースを利用できるサービス「WORK Space SMX」をリリースした。



WORK SPACE SMX (住友商事マシネックス)

Work Space SMX は、株式会社スペイシー (<https://www.spacee.jp/>) (東京都千代田区) が提供する会議室・シェアオフィスのマッチングサービスを基盤に、テレキューブサービス株式会社 (<https://telecube.jp/>) (東京都千代田区) が提供する駅やオフィスビルに設置されているスマートワークブースも利用できる法人向けサービス。特徴としては、今自分がいる場所の近くで簡単に「人数」「働き方」「仕事内容」に合わせたワークスペースを探すことが可能となっているところ。

次のアポイントまでの空き時間、在宅勤務中の Web

会議、出張中の仕事場、など、ちょっと仕事をしたい、集中できる環境が欲しい、という要望に対して、電源、WiFi、などの設備が整ったセキュリティ面でも安全な働く環境を提供する。

なお、関連のプレスリリースは、株式会社ブイキューブ (<https://jp.vcube.com/>) (東京都港区) から発表されている。

■サンワサプライ：手軽に Web 会議が行えるカメラ内蔵のスピーカーフォン「CMS-V47BK」を発売

(PR TIMES:12月12日)

サンワサプライ株式会社 (<https://www.sanwa.co.jp/>) (岡山市北区) は、手軽に Web 会議が行えるカメラ内蔵のスピーカーフォン「CMS-V47BK」を発売した。標準価格は 63,800 円 (税込み)。



CMS-V47BK(サンワサプライ)

CMS-V47BK は、小規模の Web 会議に最適なフル HD カメラ内蔵のスピーカーフォン。左右 105 度までの広角レンズに 200 万画素の CMOS センサーを搭載。カメラ上部に 360 度全指向性マイクを内蔵しており、エコーキャンセル機能とノイズを軽減・除去するノイズリダクション機能を備えている。加えて、ワンタッチでマイク機能を ON/OFF 切り替えることが可能で、常時 OFF の状態のままにし、発言する時のみ ON にするといった使い方も可能となっている。

OS 標準のドライバーで動作するため、専用ドライ

バーのインストールは不要。ケーブル長は付属の延長ケーブルを含めると最大 3.3mあり、余裕のある配線が可能で会議の規模に応じて最適な位置へ設置することができる。



カメラとマイクとスピーカーをUSBケーブル1本で簡単接続

使用イメージ (サンワサプライ)

通常、Web 会議を行う場合はカメラやマイク、スピーカーを別々で用意しセッティングする必要がある準備に手間がかかるが、この製品は、Web 会議に必要なカメラ・マイク・スピーカーを内蔵しており、USBケーブル1本をパソコンに接続するだけで簡単なセッティングできるようになっている。

手軽に Web 会議が行えることから、テレワーク制度を導入している企業のサテライトオフィスなど遠隔地で勤務している社員との Web 会議をする場合におすすめという。

ビジネス動向-国内

■ハッチ・ワーク：貸し会議室アットビジネスセンター、GN オーディオジャパンの「Jabra PanaCast」を全国 11 施設で一斉導入、無料の「WEB 会議サポートセット」として提供

(PR TIMES：12月12日)

株式会社ハッチ・ワーク (<https://hatchwork.co.jp/>)

(東京都港区) が運営する「貸し会議室アットビジネス

センター」 (<https://abc-kaigishitsu.com/>) は、GN オーディオジャパン株式会社 (<https://www.jabra.jp/>) (東京都港区) が提供する、180 度パノラマ 4K 対応カメラ「Jabra PanaCast」を 12 月 14 日から全国 11 施設で一斉導入し、無料貸し出しを開始する。貸し会議室での Jabra PanaCast の導入及び無料貸し出しは業界初の取組みという。

Jabra PanaCast

WEB会議セットに最新モデルを導入。

今までの専用マイクスピーカーはもちろん、こちらの最新カメラも今なら無料でご利用頂けます。
(台数に限りがございますのでご希望に添えない場合もございます)



4K | 3 | 180°
ビデオ | 台のカメラ | の視野

Jabra PanaCast (ハッチ・ワーク)

駅近立地で WiFi などの環境の整った会議室アットビジネスセンターは、2018 年 7 月から Web 会議の実施に最適な貸し会議室を目指し、「WEB 会議サポートセット」の提供を開始した。手軽に持ち運びできる小型のマイクスピーカーと WEB カメラのセットを全国 11 施設で導入、無料貸し出ししている。また、貸し会議室利用者に向けて、最適な Web 会議の方法を解説する無料セミナーも主催しており、普及に努めてきたという。

一方、無料で提供する WEB 会議サポートセットは好評だったが、従来の Web カメラは画角に限りがあるため全体が映らず、また表情が読み取りにくいという問題があり、これが Web 会議を行う利用者のストレスとなっていた。180 度の視野角を提供する Jabra PanaCast により、これまでの Web 会議によるストレスが 91%軽減(テスト期間の同社でのアンケート調べ)という結果が出た。

今後、WEB 会議サポートセットでは、この Jabra

PanaCast とヤマハ製マイクスピーカーのセットを提供する。ハッチ・ワークによると、最大の特徴は、両機器ともに持ち運びができるサイズであり、かつデバイスに接続するだけで自動インストールが行われ、セットアップが完了するといった手軽さが魅力という。

ハッチ・ワークは、2000年6月設立。貸し会議室運営、月極駐車場に特化したデータプラットフォーム運営などの事業を展開している。

■エクイニクス・ジャパン：Zoom 社が「Platform Equinix」を採用、サービス提供地域のグローバル拡大に

(PR TIMES：11月28日)

相互接続およびデータセンターサービスをグローバルに展開するエクイニクス・ジャパン株式会社 (<https://www.equinix.co.jp/>) (東京都中央区) は、Zoom Video Communications 社 (<https://zoom.us/>) (米国・カリフォルニア州) が、サービス提供地域をグローバルに拡大するため、「Platform Equinix」を採用することを発表した。

Zoom 社は、ビデオファーストなユニファイドコミュニケーションのグローバルな成長戦略を加速させるため、エクイニクスのグローバルなプラットフォームを採用。金融サービスや行政セクターをはじめとする主要産業の企業や組織との直接接続のほか、ネットワークサービスプロバイダーや SaaS プロバイダーとの接続が可能になった。

現在、Zoom 社のインフラは、東京、アムステルダム、フランクフルト、香港、メルボルン、ニューヨーク、トロント、シリコンバレー、シドニーの世界9市場においてエクイニクスの「Equinix International Business Exchange」データセンターを利用している。また、北米・中南米、欧州・中東・アフリカ・アジア太平洋の各地域にそれぞれ2カ所のデータセンターを配置し、信頼性の高い災害時復旧バックアップサイトと

して利用している。

加えて、Zoom は、世界の各地域内および地域間の機能を強化するために、SDN ベースのオンデマンドインターコネクションサービスである「Equinix Cloud Exchange Fabric」を利用している。これにより、企業が Platform Equinix 上で自社と他社の分散インフラストラクチャーを接続することを可能とし、世界最大規模のネットワークサービスやクラウドプロバイダーへのアクセスを提供することになる。近接距離での相互接続は、Zoom 社がネットワーク、クラウド、パートナー、顧客へ低遅延でアクセスすることを可能とする。

Equinix Cloud Exchange Fabric により、Zoom の顧客とネットワークサービスプロバイダー顧客は、自社ネットワークを Zoom のネットワークに直接かつプライベートに接続できるようになる。また、Zoom のトラヒックは、パブリックインターネットを経由せずに、テクノロジーパートナーや顧客とのプライベート接続をリアルタイムで確立したり、時間的な障壁が解消され、サービス投入のスピードを分単位まで向上させることが可能になる。

■ブイキューブ：池松壮亮さんを起用したテレキューブの新CM 12月1日よりオンエア開始

(11月29日)

株式会社ブイキューブ (<https://jp.vcube.com/>) (東京都港区) は、俳優の池松壮亮さんを起用したテレキューブの新CM「段ボール篇」「公園 1on1 篇」を、12月1日より関東圏にて放映開始した。

本CMでは、会社員役の池松壮亮さんが、オフィスの「会議室足りない問題」に直面し、講演のシーソーや段ボール箱の中など、想像できないような場所で、打ち合わせや Web 会議をしている様子をコミカルに描いている。



CM 段ボール篇 (ブイキューブ)

テレキューブ「ダンボール」篇 15 秒

https://www.youtube.com/watch?v=c5NN8JI_g60

テレキューブ「ダンボール」篇 30 秒

<https://www.youtube.com/watch?v=cw61Q84LL0s>

テレキューブ「公園 1on1」篇 15 秒

<https://www.youtube.com/watch?v=JZNbLW89maM>

テレキューブ「公園 1on1」篇 30 秒

https://www.youtube.com/watch?v=u_SvqAmXlqU

市場動向-国内

■シード・プランニング：ビジネスコミュニケーションの業務用途での利用実態調査

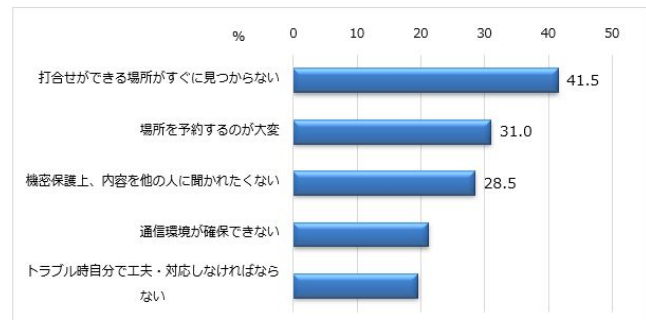
(12月5日)

株式会社シード・プランニング (<https://www.seedplanning.co.jp/>) (東京都文京区) は、業務用ビデオコミュニケーションに関する利用実態について調査を行い、市場調査レポート「業務用ビデオコミュニケーションの導入・利用実態調査 2020」として11月20日発刊した。

業務用ビデオコミュニケーションとは、会議や打ち合わせなどの業務で利用されるビデオ会議・Web 会議・ビジネスアプリ (ビデオ通話) などを指す。ビデオコミュニケーション市場では、従来からあるビデオ会議専用端末や Web 会議だけでなく、グループウェア、ビジネスチャット、オンライン商談などのクラウドサービスの中にビデオ通話機能を備えたサービスが

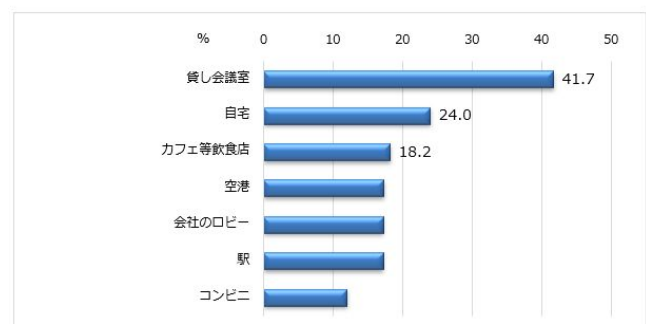
増加している。加えて、働き方改革やテレワークの普及・浸透に従い、社外での利用も行われている。

社外利用の課題 (業務用途でのユーザー n=600) (複数回答)



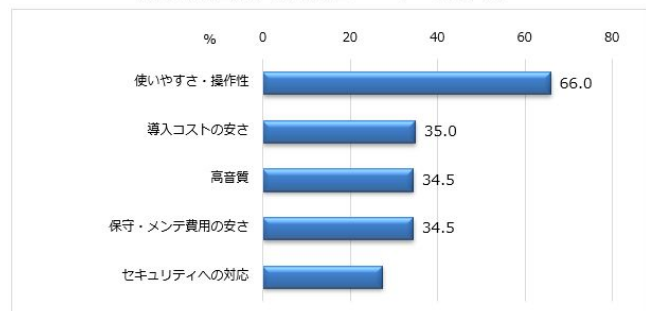
(シード・プランニング作成)

社外で利用したい場所 (業務用途でのユーザー n=600) (複数回答)



(シード・プランニング作成)

今後の導入の重視点 (導入決裁者 n=200) (複数回答)



(シード・プランニング作成)

調査結果の一部 (シード・プランニング)

この度、ビデオコミュニケーションの企業の導入担当者 (IT 決裁権限あり) 200 名と業務用途でのユーザー 400 名を調査対象とし、インターネットによる調査を実施 (2019 年 7 月～11 月)。

今回の調査レポートでは、ビデオコミュニケーションのビジネス用途について、企業の導入決裁者と業務

用途でのユーザにインターネットアンケート調査を行い、ビデオコミュニケーションの利用実態や評価、端末・サービスの使い分け、社外活用の課題や希望、導入効果や今後の重視点などを把握した。

これらの中で、社外利用の課題については、「打ち合わせする場所が見つからない」「場所の予約」「機密保護」などの指摘があった。また導入決裁者の今後重視する点については「使いやすさ・操作性」「導入コスト」「高音質」といった点が挙げられた。

※調査レポート内容詳細

<http://store.seedplanning.co.jp/item/10540.html>

PR

■ヤマハ株式会社



ユニファイド
コミュニケーション
スピーカーフォン YVC-200

<https://sound-solution.yamaha.com/products/uc/yvc-200/index>

セミナー・展示会情報

<国内>

■ブイキューブセミナー情報（12月～2020年1月）

「テレワーク環境をスムーズに整える秘訣とは？～安心してテレワークするためのITツールガイド～」、「<スマートグラス体験セミナー>ハンズフリーで現場作業を遠隔支援!」、「失敗しない「Web会議」、「テレビ会議」の選び方徹底解説セミナー」、スマートワークブース「テレキューブ」体験会など

会場：（東京・大阪・Webセミナー）

詳細・申込：<https://jp.vcube.com/event/all>

国内その他：<http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他：<http://cnar.jp/cna/event-r.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

CNAR.jp サイトの情報もご参照ください。

業界の動き

遠隔会議・UC 業界は日々さまざまな動きがあります。この定期レポートの発行は月2回（プレスリリースと取材に基づく記事）ですが、CNA レポート・ジャパンでは、業界の動きに関連した国内外の情報を日々皆さんと共有しています。よろしければご参照ください。

■フェイスブック（遠隔会議&UCトレンドワッチ）

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

■Twitter（CNA レポート・ジャパン）

<https://twitter.com/cnarjapan>

■メーリングリスト（dte-forum）

<http://cnar.jp/cna/dteforum-ml.html>

編集後記

TeleconferencingNOW <1999/12/8 No.1> 創刊号
-----teleconferencing newsletter from JCMTF-----

創刊のごあいさつ

この度は、TeleconferencingNOWをご購読いただきありがとうございます。

ここに、マルチメディア テレコンファレンス フォーラムが発行するTeleconferencingNOW No.1 創刊号をお届けいたします。

TeleconferencingNOWでは、テレビ会議、音声会議、データ会議、また、関連する遠隔医療、遠隔教育などについてのニュース、コラム、市場レポート、一押しお奨めサイトなどの情報を隔週水曜日定期にお届けします。

メールマガジンを発行するのも初めてというもあり、まだまだ不備な点等あるかと存じますが、ためになるタイムリーな情報の提供を心がけますのでよろしくお願い申し上げます。

編集 橋本啓介

☆ニュースヘッドライン(11/5-12/3)
<国内>

この定期レポートは 1999 年 12 月に創刊しまして、お陰様で、今年 20 周年を迎えます。当初はテキストのみによる発行(上写真は創刊号の一部)でしたが、2003 年からは、より情報量の多い PDF 版に変更するととも

に、名称を現在の CNA レポート・ジャパンに変え、今日までに至ります。

創刊当初は、まだ社員という立場でしたし、素人の書き手として見様見真似でやっていましたので、20年も続くとは思っていませんでした。皆様には本当にお礼申し上げます。

まだまだ課題は多いですが、少しずつでも改善しながら、お役に立てるよう頑張っていきたいと思っています。

今年の定期レポートはこの号で終わりです。また来年1月15日号から開始いたします。早いですが、良い年をお迎えてください。来年も何卒宜しく願い申し上げます。

CNA レポート・ジャパン 橋本啓介

CNAレポート・ジャパン 2019年12月15日号おわり

ホームページ: <http://cnar.jp> お問い合わせ: cnar@cnar.jp